第四15回

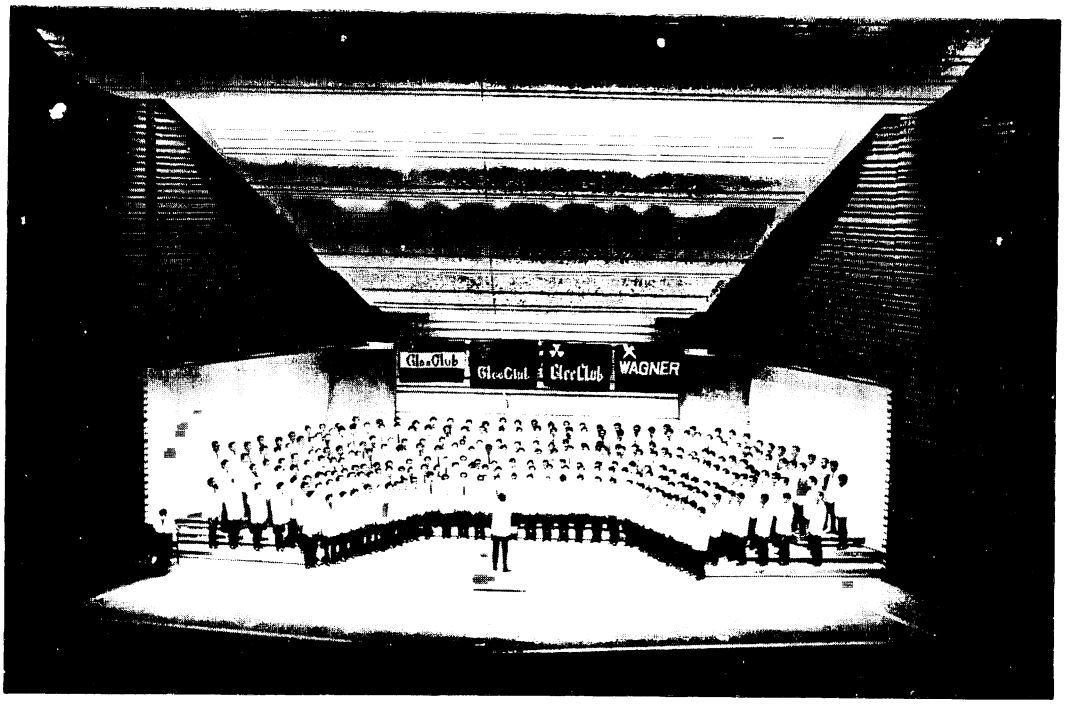
東大合演

西学唱奏会

第15回

東西四大学合唱演奏会

1966. 6. 11. 6:30 p.m
京都会館第一ホール
1966. 6. 12. 6:30 p.m
フェスティバルホール



御　　挨　　拶

15年前、昭和27年９月、先輩諸兄の努力により、第１回演奏会が催されてより何回かの分裂の危機もありましたが、今日ここに第15回東西４大学合唱演奏会を開催できますことは私達の大きな喜びであり、皆様の強い御支援の賜と一同心から感謝しております。

この４大学の結びつきは、単なるライヴァル関係ではなく、音楽を通じての人間形成の場として日夜練習にはげんでおります。

今日のこの演奏会を開催するにあたり、御援助、御指導下さいました諸先生、関係者の皆様に厚くお礼を申しあげます。

東　西　４　大　学　合　唱　連　盟

Message

早稲田総長代行　阿　部　賢　一

東西４大学合唱演奏会は、今回をもって15回を数え、しかも年毎にその充実の度を増し、ますます盛況の姿をみるとき、大学関係者としてまことに御同慶に存ずる次第であります。東西の私学の、しかも各々の代表的な音楽サークルが、一堂に会しての催しでありますので、その出来栄えに、今から期待するところ大であります。

書物が心の糧であるならば、音楽は心の清涼剤と申せましょう。未来を担う青年が、学生という限られた境遇の中で、協力し合い共に歌い共に語り、合唱という共通の場を通じて相互に人格形成に努めるということは、きわめて意義深いことであります。のみならず、そこで培われた協調と忍耐の精神、美的なもの、清いものに対する純粋な憧れの気持は、後日、社会において豊かな実を結び、ひいては社会の健全な発展に寄与するところ大と申せましょう。

この催しを通じて、４大学は申すにおよばず、各大学間で、各面において、親睦と交流をなお一そう緊密を深めるならば、これに優る幸はありません。

最後にこの演奏会を開くにあたり、御尽力賜わった先輩、関係各位、並びに御来会の皆様に厚く御礼申し上げます。

関西学院々長　小　宮　　存

今年もまた、初夏のおとずれとともに、恒例の東西四大学合唱演奏会がかくも盛大に催されますことを、心から喜びたいと思います。全国合唱ファンの方達に待たれていただけに、その期待と喜びは大きいことだろうと思います。

この演奏会も本年で15回目をむかえるわけでありますが、回を重ねるにしたがって、東西四大学の若人たちの間の理解と友情がますます深まり、美しい調和と協力とによって互いに堅く結ばれるようになりました。

どうか日本の合唱音楽界に対する指導的責任を果すためにも、彼らの相互の刺激とはげましによって切磋琢磨がなされ、わが国合唱音楽の向上のためによき貢献がなされることを心から祈って止みません。

慶応義塾塾長　永　澤　邦　男

今宵、西の関西学院、同志社、東の早稲田、慶応義塾が、ここ関西の地に集まって、第15回目の学生合唱の祭典を催しますことは、私の大いに慶びとするところであり、この演奏会の今後の発展に期待するものも、また多大であります。将来の日本の発展をも担った学生諸君が、こうした場を通じて、お互に励ましあい、今日まで自分達の積み重ねた練習の結晶を、ここで発表し得ることは、どんなにすばらしいことかと思われます。

学業はもちろん、精神ともに立派に成人しつつある学生諸君は、この美しい音楽と、その場において育成された友情とを通して、大学合唱団のリーダーシップたる気質を育て、大学間の交流を今まで以上に促進させていってもらいたいと思います。

一すじに音楽を追求し、意気の高揚をはかっている諸君の姿は、誠に心ひかれるものがあります。各大学共、練習は大変だという話を耳にしていますが、将来に大きな希望を持って、学生生活における幅の広い人間形成の上に役だててほしいと思います。

最後に皆様の深い御理解と温い御協力の下にこの演奏会が成功裡に終ることを心から祈っております。

同志社大学学長　星　名　　秦

1952年９月同志社栄光館で第１回東西四大学合唱演奏会が開催されて以来、今年をもって第15回目の演奏会を迎えるのであります。年を経るごとにその充実さを増し、その１回１回が進歩、発展の礎石を築いているといいます。さらにこの催を通じて、四大学合唱団の友好の絆を固めるとともに、お互いを理解し合い、影響し合い、技術上にも、友誼の上にも、よい結果をもたらしているのであります。

また、現在学生合唱界のトップレベルにあるといわれる四大学が催すこの演奏会が、ある意味で日本の合唱会をリードする役割りを果しているともいわれています。それは音楽を通じて集った諸君が、歌いあい、語りあい、練習を通して学んだ集団生活に対する心構え、協調、調和の精神の現れででもありましょう。これに慢心することなく、たゆまざる努力を重ねることが必要であります。驕らずたかぶらず、音楽という共通の広場を得たもの同士の集えることのできるよろこびを、歌うことのできるよろこびを、深く心に味わうべきであります。そこに、自ずと学生らしい、真摯な、正確な演奏ぶりが発揮され、合唱界をリードしていく力となることでありましょう。

遠来の早稲田、慶応義塾大学の諸君、関西学院、同志社大学の諸君ともども、どうかこの四大学合唱団が相携えて、夫々の大学のために全大学の合唱団のため力を尽されることを祈るものであります。

この演奏会が、多くの人々の好意に支えられ、盛会裡に15周年を迎えることができましたことを深く感謝いたしますとともに、かわらざるご支援をたまわりますようお願いし、ごあいさつといたします。

'66.6.11. 京都会館Ⅰ
'66.6.12 大阪フェスティバルホール

Programme

エ　ー　ル　交　歓

京都：関　西　学　院・早　稲　田・慶　　応・同　志　社

大阪：同　志　社・慶　　応・早　稲　田・関　西　学　院

Ⅰ　関西学院グリークラブ

Messe　A　Trois　Voix

指　揮　　北　村　協　一

作　曲　　André　Caplet

Kyrie

Gloria　in　excelsis　Deo

Sanctus

Agnus　Dei

Ⅱ　早稲田大学グリークラブ

メ　キ　シ　コ　の　歌

指揮編曲　　石　丸　　寛

伴　　奏　　橋　本　正　暢

La　Golondrina

Chiapanecas

Las　Mañanitas

Adelita

Ala　Orilla　De　Un　Palmar

Cielito　Lindo

Intermission

Ⅲ　慶応義塾ワグネルソサィエティー

指　揮　木　下　　保

作　曲　Friedrich Hegar

ヘーガー男声合唱曲集

Die Beiden Särge

Schlafwandel

Todtenvolk

Inden Alpen

Ⅳ　同志社グリークラブ

月光とピエロ

指　揮　福永陽一郎

作　詩　堀口大学

作　曲　清水脩

月　　光

秋のピエロ

ピエロ

ピエロの嘆き

月光とピエロとピエレットの唐草模様

Ⅴ　合同演奏

枯木と太陽の歌

指　揮　福永陽一郎

伴　奏　三浦洋一

作　詩　中田浩一郎

作　曲　石井　　歓

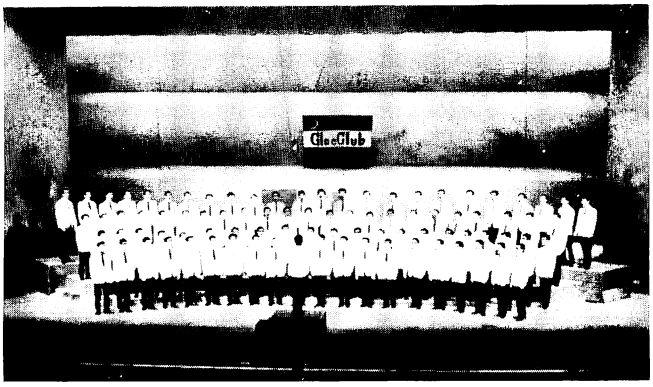
枯木は独りで歌う

花と太陽の会話

冬の夜の木枯の合唱

枯木は太陽に祈る

曲 目 解 説



関西学院グリークラブ

Messe A Trois Voix

"Messe A Trois Voix" の作曲者 Andre Caplet (1878〜1925) はフランスの指揮者で作曲家である。1896年からパリ音楽院に学び、1901年にはローマ大賞を受賞。18才の時には Edouard Colonne (フランスの指揮者) の助手として働き、21才の時にはロデオン座の音楽監督としての重責を果すまでになった。

Caplet は Debussy と親交を結び、その作品を多数編曲し、また「聖セバスチャンの殉教」の初演を指揮したりした。

1910年から14年まで Caplet は Boston で音楽監督と指揮者をしたのであるが、その時彼は近代のフランスの作曲家による大変な数の著名な作品を大衆に紹介して大成功を収めた。1925年には Opera 座でイタリアの作曲家 Lully の「愛の勝利」を再上演し、その演奏では管弦編成法を変革した。

同時代の音楽家の中で、彼は近代的なハーモニーと器楽的な色彩を権威と好みを持って用いた作曲家として位を占めていた。彼は観察の鋭い詩人だったが、最も自然な方法で作品の最初の音符から夢のような魔法のような雰囲気をどのように作るかに頭を使った。洗練された芸術家の彼は、非常に優雅な表現を選んで最も繊細ではかなく、人に目立たない考えや感情をうまく表現したのである。彼の作品は多方面にわたるが、ミサ、オラトリオ等において、C. Frank 以後のフランス宗教音楽の新しい様式を作ったといえる。代表作としては本日演奏する「三声ミサ」の他にオラトリオ「イエスの鏡」、Vc と Orch のための「主の誕生」、歌曲「日々の糧」等が挙げられる。

この「三声ミサ」には、ミサ通常文の Credo が省略されており、Benedictus も Sanctus の後半部として、独立には扱われていない。そして O Salutaris が加えられ全5唱から構成されているが、本日は O Salutaris を除いて演奏する。

Kyrie 主なる神とキリストに憐みを乞い願う祈り。

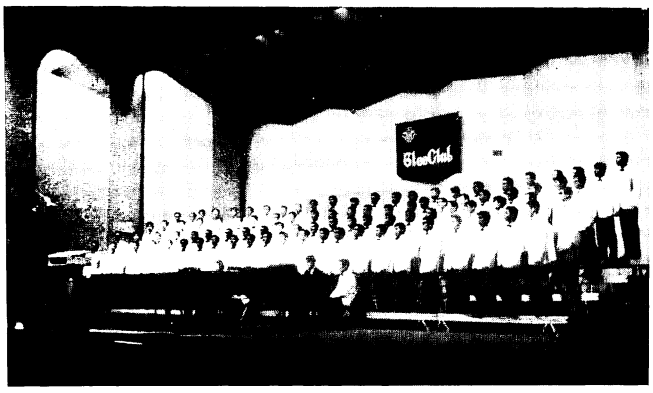
Gloria 三位一体の神の栄光を讃美しており、ルカ伝2章13節の詞より歌い始められる。

Sanctus "聖なるかな万軍の主、主の栄光は天地に満てり……。" と讃美を歌いあげる。

Agnus Dei "世の罪を除き給う神の子羊、我等に平安を与え給え"。敬虔な祈りと荘厳な静けさの中にミサ曲を終る。

早稲田大学グリークラブ

メ キ シ コ の 歌



現在もなお謎を秘め、その規模は古代エジプト文明の精緻・雄大さに匹敵するマヤ・アステカその他のインディオ文明が古代の原野に栄えていた国メキシコ。近代文明によって変貌していく街の姿をよそに、メヒコの上にしみ込んだ民俗文化は朽ちることなく美しい花々を咲かせています。特にメキシコ人を心の底から楽しませるものと言えば、あの照りつける太陽の下、メキシコの高原に生れ、メキシコの空気に育ったリズムの数々であり、これら民謡が今もなお昔ながらのメキシコの情緒を豊かに漂わせているのです。このようにメキシコは世界に知られた民謡の宝庫ですが、他の国の人々が往々にして特定のミュージシャンによる演奏を聴いて楽しむのとは異り、メキシコの人々はあくまで自ら奏で、自ら歌って楽しむ民族なのです。それはトランペット、ギター、バイオリン等を手にソンブレロ、ランチェロ姿のマリアッチと呼ばれる楽団やアマチュアのボーカルトリオが数多くあるのを見てもわかると思います。フィエスタ（祭り）の夜空に響くその調べはメキシコ独特の魅力を持ったものと言えましょう。メキシコ人が底抜けの音楽好きであるこの特殊性が外来音楽に影響されずメキシコ古来の民俗音楽を栄えさせていると申せましょう。

oLA GOLONDRINA（つばめ）

自分を風に迷ったつばめになぞらえた切なく美しいメロディーからメキシコ民謡特有のやるせない情熱を味って下さい。

oCHIAPANECAS（手拍子打って）

最大行事であるフイエスタ（祭り）を彩る民謡の一つで、徹底的に明るいこの唄は賑やかなフイエスタの情景を偲ばせてくれます。

oLAS MANÃNITAS（朝の歌）

朝もやの中から静かに流れてくるような美しく甘いメロディーは"私が君を好きになったのはこんな朝だった。"と歌います。

oADELITA（いとしのアデリータ）

"アデリータよ、私が戦いで死んでも泣かないでくれ。"と、恋人を慕うと同時に祖国のためには死をも恐れぬ情熱が溢れています。

oALA ORILLA DE UN PALMAR（やしの木蔭で）

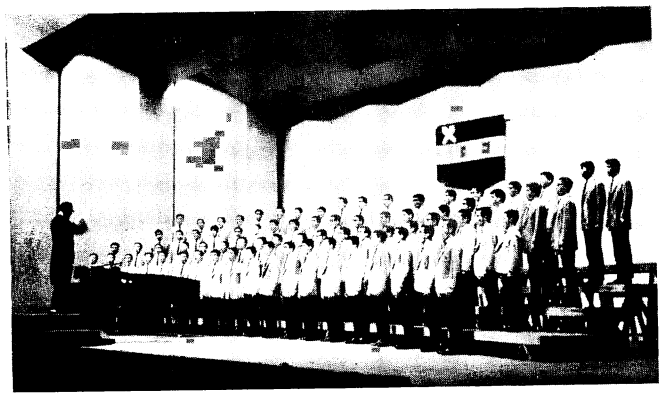
やしの木蔭で一人寂しく暮しているみなし子の娘が自分の境遇をしみじみと語りかけてきます。

oCIELITO LINDO（美しき空）

シエリト・リンドとは恋人を詩的に呼ぶ時に使われる言葉です。この歌はスペインから伝わったものと言われ、現在もスペイン民謡の中に共通した歌詞がみられます。

さて、美しい楽しい歌に解説は不要です。ではテキーラの香りに酔い、激しい恋を語り、甘いボレロを楽しみながら更けゆくメキシコの夜に思いを馳せながらお聴き下さい。

曲 目 解 説



慶応義塾ワグネル・ソサィエティー

ヘーガー男声合唱曲集

19世紀ドイツ・ロマン派の時代は、合唱音楽にとって非常に重要な時代である。それまで器楽音楽の発展と充実に伴って忘れかけられていた合唱音楽が再び日の目を見ることが出来た時代である。

この時代、ドイツの市民階級の生活は一応安定し、市民達の楽しみのためのアマチュア合唱団が数多くつくられ、（ベルリンのリーダーターフェル、南ドイツのリーダークランツ）それに応じてやさしく、優れた合唱作品（特に男声合唱）が、オットー、ジルヘル、クロイツェル等「リーダーシャッツ」でおなじみの作曲家達によって多く作曲された。

Friedrich Hegar（1841〜1927）は、スイスで生まれ、ライプツィッヒで音楽教育を受け、1863年以降チューリッヒで作曲を続けた人である。その頃はドイツ男声合唱曲の爛熟期で、又作品も極度に技術的に発展して、大曲時代となった。即ち管弦楽との協力を可能にした時代であった。（ワーグナー、マックス・レーガー、ブラームス等の大管弦楽付男声合唱）

ヘーガーは、無伴奏男声合唱によって管弦楽が表現する力強さを出してみせたのである。彼は一生の間、男声合唱しか作曲せず、バラード風の大曲が多い。

Die Beiden Särge （二つの柩）Justinus Kerner 「王様」の柩と「歌人」の柩が聖堂におかれてある。かって王座に君臨した王の手の剣はもはや動かない。しかし歌人の抱く竪琴は永遠の歌をかなでると唱ったもの。

Schlafwandel（幻を追いて）Gottfried Keller アフリカの砂漠で戦死した人達の幻の行軍を取扱った曲で、不幸な男達の再び生きて帰れぬ虚しさを唱うとともに、その故里へのあこがれを印象的な旋律で表現している。

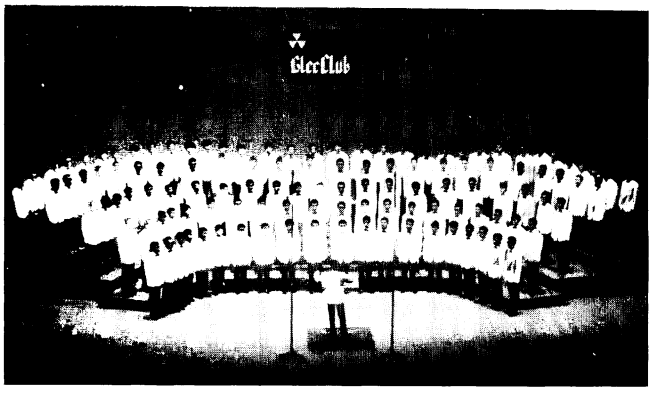
Todtenvolk（死せる人々）Joseph Victor Widmann 前の曲と同様に、戦争の悲惨を唱ったもので、これはティーダルの山奥で全員凍死した軍隊の雪中行軍を扱っている。Scklafwandel とこの Todtenvolk はシューベルトの男声合唱と肩をならべる傑作である。

In den Alpen（アルプスにて）J.V.v. Scheffel 山頂をきわめた時のよろこびをえがいたもので、大空に舞わむ自由のよろこびを歌った、自由へのあこがれの曲である。

以上、ヘーガーについての資料、文献に関しては、山口隆俊氏の多大なる援助をお願いした。

同志社グリークラブ

月 光 と ピ エ ロ



男声合唱と言えば〝月ピエ〟、とすぐ来るのは、詩と曲との心憎いまでの結びつきによるこの曲のユニークな面を物語るものと思われます。

最初、第2曲「秋のピエロ」が第3回全日本合唱コンクール課題曲募集当選作として発表され、翌、昭和24年作曲者清水脩先生の指揮していた東京男声合唱団のため、他の4曲が加えられ「月光とピエロ」が完成、この合唱団で初演された。

戦後の混乱の風潮の中にあって、投じられた一石は人々の共感を呼んだ。

人間の一断面としての表情をピエロに託してうたった堀口大学の詩は、ここに至ってより強い表現力を得て再生したわけである。

月光とピエロ　　堀口大学

Ⅰ　月　　夜

月の光の照る辻に
ピエロさびしく立ちにけり

ピエロの姿白ければ
月の光に濡れにけり

あたりしみじみ見まわせど
コロンビイヌの影もなし

あまりに事のかなしさに
ピエロは涙ながしけり

Ⅱ　秋のピエロ

泣きわらいしてわがピエロ
秋じゃ！　秋じゃ！と歌うなり
月のようなるおしろいの
顔が涙を流すなり

身すぎ世すぎの是非もなく
おどけたれどもわがピエロ

秋はしみじみ身に滲みて
真実なみだを流すなり

Ⅲ　ピエロ

ピエロの白さ！
身のつらさ！

ピエロの顔は
まっしろけ！

白くあかるく
見ゆれども

ピエロの顔は
さびしかり！

ピエロは
月の光なり！

白くあかるく
見ゆれども

月のひかりは
さびしかり！

Ⅳ　ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ
月のやもめの父無児！
月はみ空に身はここに
身すぎ世すぎの泣き笑い！

Ⅴ　月光とピエロと
ピエレットの唐草模様

月の光に照されて
ピエロ、ピエレット
踊りけり
ピエロ、ピエレット
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット
歌いけり
ピエロ、ピエレット
踊りけり
ピエロ、ピエレット
歌いけり
ピエロ、ピエレット
踊りけり
歌いけり
ピエロ、ピエレット
ピエロ、ピエレット
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット
ピエロ、ピエレット
月の光に照らされて

合同演奏

東西4大学の合同合唱

福永陽一郎

今年で15回をむかえた「四連」をふりかえってみると、その合同合唱の進歩の足跡は、木下先生によってふみ固められてきたのだということを、つくづく感じます。「あわて床屋」の楽しさから、「蛙の歌」の完成度まで、1回1回、先生によって重ねられてきた合同合唱の実績は、まるで、日本の大学合唱の水準の向上を、そのまま記録づけているように思えます。

今でこそ、同じ舞台に出していただいて、同じ指揮者のような顔をしている私にとって、木下先生は、音楽学校学生時代の、もっとも恐ろしい教授であり、いうまでもなく、親子ほどもキャリアの違う大先輩なのですけれども、音楽にたちむかっておられるときの、先生の若々しさや、強烈な情熱には、全く圧倒されてしまいます。自分のあきらめの早さを、いつも反省させられます。

今度、私は、合同合唱曲として初めて、「枯木と太陽の歌」のような大曲をとりあげました。この曲は5年前、すでに木下先生が「四連」の合同曲にとりあげられたものですが、今までの私には、合同合唱というものに、そこまでの自信が持てずに、脇に置いて見過ごしてきた曲です。声楽的に無理な部分もいくらかあるこの「名曲」は、合唱団の人数によって、その無理をカバーできるかと思いますが、その人数が、ただ多いというだけでなく、東西4大学という、質的にも無類のハイレベルにあるメンバーでやれるのですから、私さえ弱気にならなければ、きっと立派な成果が得られると信じて、全力をそそぎたいと考えています。

Ⅳ　枯木は太陽に祈る

枯木は独りで唱う
枯木は独りなのだ
独りで唱うだけだよ
今宵の月の出に
夜空に真向いて
こころこめて唱うよ
生命の限り叫ぶよ
きれいな月の夜だ
悲しい祭りだ
生命のかぎり

枯木はいつも独りだ
闘い疲れ果て
傷つく躬を
励ましふるって
枯木は思うさま唱うよ
大地をふるわせ
のぞみを求めて
悲しいこころをいたわり
＜この世の平和と
この世の恵みこそ
我が願い我がのぞみ
のぞみのぞみ……＞

メッセージ

清水　脩

四連が早くも15周年を迎えられ、その記念演奏会を開かれるときき、御祝いのことばをおくります。

戦後、大学グリー・クラブの向上発展には目を見はらせるものがあります。中でも、この4大学は、常にその先頭に立ち、充実した男声合唱をきかせてきたことは、万人のひとしく認めるところです。昨年はその一員たる関西学院グリークラブが渡米し、日本の大学グリークラブの真価を示してきました。たしかに、日本の大学グリークラブは、世界のトップに立つものと思われます。しかし、それを維持してゆくためには、日本人でなければできない何物かをわが手にしっかり握っていなければならないと思います。それのできるのは、まさして四連ではないでしょうか。諸君はそのような自負をもっているべきでしょう。

今夜のこの記念すべき演奏会をして、そのようなパーソナリティ把握の機会とされるよう切望します。諸君の若々しい情熱をもってすれば、それをなし遂げうるのは必定で、私は聴衆の諸君とともに、その輝やかしい未来を見まってゆきたいと思います。

北村協一

昭和29年関西学院大学経済学部卒業、在学中，関西学院グリークラブの指揮者として活躍。卒業後，東京コラリアーズ入団。昭和31年同団の指揮者、ルナ・アルモニコの指揮者等を経て、昭和36年藤原歌劇団入団。合唱部クールプティー専任指揮者を務め、昭和38年6月同団によるプッチーニ「外套」を指揮、オペラ指揮者としてデビュー。昭和40年退団。現在東京コラリアーズ指揮者、グリークラブ渡米指揮者。

畑中良輔、森正、今村征男の各氏に師事。

石丸　寛

現在の4年生が先生に指揮して頂くのは2度目である。だから世間で某大卒、誰それに師事、現在は何処そこで活躍中と言われている以外、余り知るよしもない。しかし筆者の記憶する限りにおいて、先生の棒は余りにも我々にとってセンセーショナルなものであったと思う。あの小さな体からどうしてあんなに鋭いものが生れるのだろう？　あの人間ばなれした顔からどうしてあんな美しいものが生れてくるのだろう？　細くて短いズボンをはいて、若々しい雰囲気で一杯だけど、もう相当歳なんじゃないかな？　練習時に不手な洒落を飛ばして兄貴分みたいな物の言い方をされるのが何とも言えず好きだ。どうみても二枚目じゃないけど、悪口の言えない御人柄であると言えよう。何やかやと先生の自尊心を傷つけるようなことを述べましたが、我等の愛すべき先生よ！末長く御指導下さいますようお願い致します。

木下　保

明治36年10月14日兵庫県に生まれる。昭和3年東京音楽学校卒業後、ドイツ、イタリアに留学され、ネトケ・レーヴェ、バイセンボル両氏に師事され、昭和10年帰朝された。その後、東京音楽学校教授となられ、辞任後は、オペラ方面に進出され、現在も「夕鶴」等で活躍されている。近年は合唱の方にも力を注がれ、日本合唱界にとっては非常に大きな存在であられる。

糸を手操り寄せるような独特な指揮法の先生の練習は、いつも"厳しさ"と"暖かさ"の中で進められます。芸術に対しては絶対に妥協のない厳然とした先生の態度、それは、僕達に、創造する厳しさ、音楽に苦しむ楽しさ、成就の喜びを教えて下さるのです。時には、難解な個所など、素晴らしいお声で手本を示して下さる先生は、若い僕達でさえ圧倒されてしまう程に精力的であられるのです。「それじあ、だめだよ、おい！」とガッカリされるお姿、うまくいった時、目を見開いて指を丸め、ニッコリされるお顔。この先生がすでに還暦を過去のものとされたなどとは、誰が信じるでしょう。先生の持っておられる音楽の深さ、厳しさ、強さ、偉大さ。ワグネルの生きた歴史であられる先生。人間国宝的存在の先生。父親のようにも神様のようにも思われる先生。とても太刀打できなくとも、その先生に棒を振って頂ける一刻一刻の幸せをかみ締めながら、今日も、ワグネリアンは力一杯歌うのです。

福永陽一郎

1926年神戸に生れる。1948年東京音楽学校本科（現芸大）ピアノ科中退。ピアノを井口基成、豊増昇両氏に指揮法作曲法を近衛秀麿氏に師事、1950年藤原歌劇団に入団。1956年同団常任指揮者になり渡米。

1952年には畑中良輔氏と共に、日本で最初のプロ・コーラス「東京コラリアーズ」を創設。

近年数回来日したイタリア・オペラ公演では、副指揮者、或は合唱指揮者として参加。歌劇指揮者としては日本屈指のベテランである。

合唱音楽に関しても経験が深く、合唱指揮活動、及び合唱用の編曲作品は数えることが困難なほど多い。

三浦洋一

昭和30年、東京芸術大学ピアノ科卒業。

遠山つや、ハンス・カンに師事。

高度のテクニックと豊かな音楽性のゆえに今や第一級のピアニストとしてゆるぎない地位を保っている。

リサイタルも積極的に開いているが、伴奏の面では特に声楽の伴奏者として優れ、日本の声楽のみならず、外来声楽の伴奏をつとめ好評を得ている。

橋本正暢

ピアノを本田喜久恵、新名博子、井口基成、井口愛子の諸先生に師事し、1963年に読売日本交響楽団に入り現在に至っている。氏はクラシックを身につけ、しかもジャズに対する感覚も鋭くガーシュイン等の音楽に造形も深いところから、先頃アーサーフィドラー氏来日の際に共演し好評を博した。

みるからに温厚な性質がその優しいまなざしからうかがわれ、物わかりの良い兄貴のような親しさがある。また車のマニアであり、すでに7台目の車を愛用しているが、陸上だけではあきたらず空にも手をのばしはじめた。航空免状も取りセスナ機を買い入れて、暇な時はもっぱら乗りまわしているとか。

グリーとのつきあいは始めてであるが、その豊かな音楽性と温い人間性によってわれわれを魅了させてくれるだろう。今度グリーを指揮する石丸寛氏とのつきあいも長く、お互に気があい、名コンビとして度々活躍している。今回の演奏会にもその名コンビぶりが、発揮されるのを楽しみにしている。

早稲田大学グリークラブ

私達早大グリークラブの母体は大正年間にありますが、現在のような体制で歩み始めたのは戦後のことです。現在は、早稲田大学文化団体連合の中で最大の規模を有し、また、着実に活動を続ける代表的なサークルとして認められております。約200名の部員は、厳格な規律の下に、合唱を通じ音楽芸術を追求すると共に、部員相互の親交を深め、団体生活の中から多くのものを学びつつ、人格形成をも目指し、有意義な学生生活を送っています。

グリー出身の卒業生は約400名にもおよび、それぞれの職場の合唱団で、あるいはOBの合唱団である稲門グリークラブで活躍しております。ヴォーカル・カルテットの"ボニー・ジャックス"早大グリーの育ての親であり、また、今日多くの合唱団で愛唱されている「遙かな友に」を私達のために作曲して下さった磯部俶、また、イタリア留学中、数々のコンクールに優勝し、日本に数少ない本格派ベース歌手である岡村喬生各氏もそういったグリー学部卒業の一員なのです。

年間の主な活動は、定期演奏会をはじめとして、東西4大学、東京6大学、早慶交歓演奏会、送別、チャリティー演奏会、早大学内のオーケストラと合唱団が一堂に会して行なう第9演奏会、また、春、夏の演奏旅行、合宿と数多くあります。また、ラジオ、テレビの出演もあり、去年の第20回芸術祭には、東京放送の企画により、合唱コンクール部門に参加し、武川寛海作詩、石井歓作曲の「五つの学生の歌」を歌って芸術祭奨励賞を受賞しました。

アマチュアの特に学生合唱団においては、練習こそ活動の主体となるものだと思います。今回、早大学内に起きた紛争により、私達は2月から4月末まで、ほとんど活動停止の状態にありました。2月末に予定していた送別演奏会も中止いたしました。そのため、例年の半分の練習期間しかわれわれには許されませんでした。しかし、過去3カ月間のブランクを取り戻すべくこの1カ月間懸命な練習をしてきました。ただ、素晴しい音楽を創造したいという部員一人一人の情熱に支えられて、1カ月間ほとんど休みのない殺人的な練習日程を消化してきました。この音楽に対する若々しい情熱こそ、わが早大グリーの活動力の源泉なのです。

会長	五十嵐新次郎
顧問	磯部俶
ヴィイストレーナー	城須美子
部長	小林正明
学生指揮者	丸山美雄
パートリーダー	
Top Tenor	清水透
Second Tenor	井上攻
Baritone	松本洋一郎
Bass	中山勝彦
内政マネージャー	小路口征也
外政マネージャー	田摩勇
会計	和田清
学内マネージャー	永井秀夫
演奏旅行マネージャー	竹内泰彦
	二瓶春樹
合宿マネージャー	頴原信二郎
印刷局長	宮本嗣男
記録	星直吉

Home Made Cookies

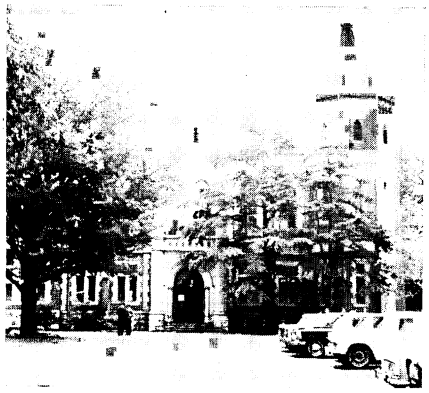
CONFECTIONERY IZUMIYA

純欧風銘菓

泉屋

本社 京都市中京区烏丸通二条下 TEL 23—代表 4185—8

名古屋・京阪神・姫路・中国・四国・九州・北陸・山陰 各有名百貨店



慶応義塾ワグネルソサィエティー

私道の合唱団は、一般のグリークラブとは感覚を異にするワグネルソサィエティーというリヒアルト・ワグナーにあやかった雄壮な名を頭に抱いております。私達ワグネリアンは、この特異にして偉大な名称に似合しくあるべく、日々の活動に雄叫びを上げ、一路邁進して参りました。

そもそも、音楽を愛する学生の集団が、1900年に三田山上に芽生えて以来、関東大震災、太平洋戦争、或は、著名人をお迎えしての荘厳な数々の名演奏会等、何重もの禍福を経て、今日見るワグネルを築いて来たのでした。

現在、三色旗の下にワグネルライフを満喫している者は、約140名に及びますが、彼等の日常の行動も種々であって、講義や研究会の終るのも待ち遠しく練習会場に駆けつけたり、昼食時に放課後に学生食堂でダベったり、或は、後髪の引かれる思いをしながら練習をサボったり、遅刻しては足音忍ばせて後列に並んで練習したり、またある時は、4人集まれば中国式室内遊戯に乏しい頭を捻り、コントロールの良さを求めては球転がしに真剣になるのです。しかも、これの相棒が必ずやワグネリアンである位、彼等は恐るべき結束力を示すのです。一方この彼等も、練習日ともなると1日4食は軽く平らげ、そこで養った精力を、〝ワグネル体操〟に始まる繊細な芸術に投入する。そして、精根尽くし、帰宅後は、疲れた体に鞭打って机に向かう一介の学生と化するのです。こうした日々の繰り返しであるワグネルライフも、ワグネリアンが一心同体の終日を過ごす春夏の合宿と演奏旅行、本日の四連をも含めた他大学との交換演奏会、その他数多の行事を経て、一年の総決算である定期演奏会となるに至っては、変化に富んだ豊かなワグネルライフとなるのです。

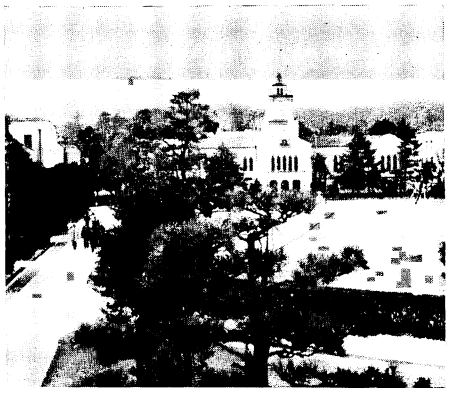
しかしながら、ステージ上のワグネリアンの陰には、最高の芸術を目標に、先生方に叱咤激励され、厳烈な辛苦をかみ締めて若き血潮を燃やし、輝ける太陽の下に一歩一歩力強く歩む若人の雄姿があるのです。この努力の結晶を果しては、感激に胸を震わせ、感涙に咽ぶワグネリアンなのです。

晴耕雨読の一日一日に、木下保・畑中良輔・北村協一・大久保昭男・辻敬夫諸先生方の衷心からの身に余る厚き御指導を賜わり、教室では学び得ない精神の鍛錬を重点に、ただ前進あるのみの活動を行っております。常に謙虚で誠実に、技術を磨く厳しさに耐えて壁を乗り越えて来たワグネリアンの、ワグネリアンによる、ワグネルトーンが、今宵もここに響き渡るのです。

顧問	村田武雄
顧問指揮者	木下保
専任指揮者	畑中良輔
幹事	
責任者	相良聿彦
内事庶務	泉武利
外事庶務	柴山義光
会計	坂口一彦
文連委員	富崎郁夫
印刷局長	草光宏
四連マネージャー	井上昌宜
六連マネージャー	清田正隆
定演マネージャー	三宅勲
演奏旅行マネージャー	五十嵐信夫
指揮者	一法師信武
副指揮者	鈴木英孝
パート・リーダー	
トップ・テナー	平沢輝雄
セカンド・テナー	三ツ口勝弥
バリトン	渡辺伸二
ベース	早川正昭

飲み口…すっきり。
ノドごし…爽やか
酔い心地…おおらか
これがビールだ！
SUNTORY
ブリュッセル・C・S・P主催食品審査会
2年連続金賞獲得
青年のビール
サントリービール
■大瓶一20円■小瓶70円

関西学院グリークラブ



関西学院は明治22年の秋、神戸「原田の森」に産声をあげました。神の御名によって建てられたこの学院には当初より必然的に礼拝における讃美歌があり、音楽が附随していたのです。明治29年に行われた卒業式の際４名の学生によって讃美歌 "Good will be till we meet again" が歌われましたが、これが公の席で歌われた最初のもので、外人宣教師夫人の指導によるものでした。

明治29年以来、毎年１回英語会が催されていましたが、明治32年、そのプログラムに合唱を入れようということになり、はじめて男声合唱団が組織され、当時の院長であった吉岡美国先生によって GLEE CLUB と名づけられたのです。これが現在の関西学院グリークラブの始まりであり、この時グリークラブとして演奏した曲の一つが現在なお歌いつづけられている College Song "Old Kwansei" なのです。昨年末亡くなられた山田耕筰先生がグリークラブで活躍されたのが丁度この頃であります。

以来グリークラブは古き先輩達によって学院建学の精神に沿って育まれ、礎を固められ幾多の後輩がよくその伝統を継ぎ、明治、大正昭和と67年間メンタルハーモニーをそのモットーとして着々と発展し続けてきました。殊に第二次大戦中、部員わずか３名という時にも休むことなく歩みつづけてきたことは、関学グリーの誇りであります。

その間にグリークラブはさきの山田耕筰、津川主一、由木康、林雄一郎、北村協一などの秀れた先輩を生み出しております。

一昨々年の台湾親善訪問につづいて、昨年の秋にはニューヨークのリンカーンセンターフィルハーモニックホールで行われた世界大学合唱フェスティバルに日本代表として招待され、彼地で絶賛を浴びました。そしてこれを機会に世界の17の大学合唱団と姉妹提携をなし、変らぬ友情と音楽によって、国際文化交流のために少しでも役立とうと誓ってまいりました。

顧問	笹森四郎
技術顧問	林雄一郎
指揮者	北村協一
ヴォイストレーナー	中村義春

幹部

部長	村上一平
指揮者	小池義郎
人事	塩谷健
マネージャー	安井達也
〃	谷垣周作
〃	小林正一
会計	村上勝
庶務	小林伊一
サブマネージャー	籔原健
〃	坂上伸治
〃	有木信秀
副会計	漆崎公義
副庶務	山崎信夫
〃	尾崎和義
パートリーダー	
TopTenor	秋山健
IIndTenor	谷口詔彦
Baritone	西川康大
Bass	近藤平

coffee & snack

芝

喫茶・軽食

京・烏丸今出川西入ル
TEL. 44-1318

同志社グリークラブ

我クラブは今年で創立62年、現在部員140余名という大世帯で、その目的たる「同志社精神を戒し、メンバー相互のメンタルハーモニー、カレッジライフの向上」に不断の精進を続けております。

明治34年、35年頃は単に讃美歌を練習するための小グループだったのですが、明治44年現名誉顧問片桐哲先生がこれをグリークラブと名付け、始めて組織化されました。しかし聖歌隊的なものに飽きたらない学生が大正の2年プリムローズクラブなる合唱団を組織、一般合唱音楽の研究につとめるようになりました。以後両合唱団は或は共に或は別に活躍し、その足跡は遠く満洲、朝鮮、中国、台湾に及んでいます。

昭和16年両合唱団は合併し、同志社大学男声合唱団となり、戦後いちはやく復活し、同志社グリークラブとして今日に至っております。その間、毎年の定期演奏会、東西四大学合唱祭、立教大学グリークラブとの交歓演奏会、関西学院グリークラブとの交歓演奏会、テレビ、ラジオ放送、毎春夏の演奏旅行に努力を続けて来ております。

かくの如く半世紀を超える輝かしい歴史の間、600名近い先輩を送り、今なお音楽界に活躍中の内田栄一、大中寅二、湯浅永年、山口隆俊、宅孝二、水谷央、今西善治郎の諸氏もその一人であります。

現在、福永陽一郎先生を技術顧問、大久保昭男、中村博之先生をヴォイストレーナとしてお迎えし、より高度な音楽の創造を目的になお一層前進せんと努力いたしております。

名誉顧問	片桐　哲
顧問	遠藤　彰
技術顧問	福永陽一郎
ヴォイス・トレーナー	
	大久保昭男
	中村博之
―役員―	
幹事長	鹿毛民雄
内政	出口正昭
外政	栗山昭男
渉外	工藤宣雄
会計	吉田孝昭
ステージ	池田研一
演奏旅行	楠本　栄
内事庶務	山根　広
外事庶務	中嶌　暁
文連常任委員	熊谷信治
指揮者	渋谷和彦
副指揮者	太田陸夫
パートリーダー	
Top Tenor	沢井浩一
II nd Tenor	石黒　武
Baritone	植松康男
Bass	椎村尚平

最新の電子楽器
ヤマハエレクトーン
フルート、バイオリン、チェロ、ホルン
ピアノ、オルガン、チェンバロン…の音を
トーンレバーの簡単な操作で無限の美しい
音色を生む最新の楽器です。
＊あなたの 株式会社 十字屋樂器店
京都市中京区三条寺町東入 電話 (21) 0246～9

東西四大学合唱演奏会史

第 1 回	昭和27年9月21日	同志社栄光館　9月22日	大阪産経ホール
合同演奏	長井　斉指揮	「Ave Maria」「愛でし友」	
第 2 回	昭和28年9月20日	日本青年会館（昼夜）	
合同演奏	福永陽一郎指揮	「いざ起て戦人よ」「おお美しき星よ」「希望の島」	
第 3 回	昭和29年9月18日	同志社栄光館　9月19日	大阪産経ホール（昼夜）
合同演奏	長井　斉指揮	「Zum Gloria」「Zum Sanctus」「秋のピエロ」	
第 4 回	昭和30年9月18日	日本青年館ホール（昼夜）	
合同演奏	福永陽一郎指揮	「Die Nacht」シューベルト「詩篇」103篇　media nita	
第 5 回	昭和31年9月15日	宝塚大劇場　9月16日	同志社栄光館
合同演奏	林　雄一郎指揮		
第 6 回	昭和32年6月23日	日本青年会館（昼夜）	
合同演奏	磯部　俶指揮	「夏が来たかと」「ふるさと」	
第 7 回	昭和33年6月21日	同志社栄光館　6月22日	大阪毎日ホール
合同演奏	D・ラーソン指揮	「Rock-a ma soul」「What kind a shoes」「Never said a mumbarin' word」「Joshua fit de battle of Jericho」	
第 8 回	昭和34年6月21日	共立講堂（昼夜）	
合同演奏	木下　保指揮	山田耕筰作品集「からたちの花」「待ちぼうけ」「あわて床屋」「ペチカ」	
第 9 回	昭和35年6月25日	京都会館ホール　6月26日	大阪フェスティバルホール
合同演奏	長井　斉指揮	「兵士の合唱」「巡礼の合唱」	
第 10 回	昭和36年6月17日、18日	東京文化会館	
合同演奏	木下　保指揮	「枯木と太陽の歌」	
第 11 回	昭和37年6月23日	京都会館ホール　6月24日	大阪フェスティバルホール
合同演奏	福永陽一郎指揮	「Listen to de Lambs」	
第 12 回	昭和38年6月22日、23日	東京上野文化会館	
合同演奏	木下　保指揮	「若者の歌」	
第 13 回	昭和39年6月13日	神戸国際会館　6月14日	大阪フェスティバルホール
合同演奏	北村　協一指揮	「Credo」	
第 14 回	昭和40年6月19日、20日	東京文化会館大ホール	
合同演奏	木下　保指揮	組曲「蛙の歌」	
第 15 回	昭和41年6月11日	京都会館第1ホール　6月12日	大阪フェスティバルホール
合同演奏	福永陽一郎指揮	「枯木と太陽の歌」	

定期演奏会のお知らせ

早稲田	12月3日（土）	渋谷公会堂
	12月4日（日）	厚生年金会館大ホール
慶応	12月10日（土）	厚生年金会館大ホール
	12月11日（日）	渋谷公会堂
関学	1月中旬	フェスティバルホール
		神戸国際会館
同志社	11月下旬	京都会館第1ホール
	12月9日（金）	大阪毎日ホール

高級服地と洋裁

フクヤ洋装店

宝塚市逆瀬川　TEL宝塚⑥6650

6/2. ordtionなり。二年になってから全てをGleeにかけたみたいな生活だった。しかし今日はどうも歌えなかった。何故だろう。練習不足？とんでもない。一生けんめいやった。でもやっぱり1人で歌うのはむつかしいね。大阪のステージどうしてもものりたい思いきりフェスティバルで歌ってみたい。もういい全てをつくしたのだ 6/6のセレクト発表を待つのみだ。報いられない努力があってもよいじゃないか。何も考えるな。

6/9 (木) 雨.

四連を明後日にひかえた今日、セレクトの発表があった。のれていた。よかった。ほんとうによかった。Bassの二年では坂下白船小屋敷それに僕の4名。トップの二年はall out。ずいぶんときびしいセレクト。総数67名。二年になって他の事はともかくグリーに関しては必死になってがんばったつもりだ。「月ピエ」すばらしい曲。陽ちゃん先生。すばらしい先生。ガンバルよ俺思いきり歌うよな。

6/12. (大阪フェスティバル)

この感激最高すばらしかったなあ。きのうの京都のステージは陽ちゃん先生評によると何もいうことなし！よくやった。だそうな。しかし僕は今日のほうが感激した。聴衆のあの拍手曲の終った瞬間涙がでてきてこまった幕よはやくしまってくれそうさけびたいようなちょっとてれくさいような気分。何もいうことなしだほんとうに。とにかくすばらしかったの一語につきる。一生けんめいやったかいがあった。percyも感激してくれたことだろう

東西四大学合唱連盟委員

田摩　勇（早稲田）
井上昌宣（慶応義塾）
安井達也（関西学院）
工藤宣雄（同志社）

慶応義塾ワグネルソサイエティー

早稲田大学グリークラブ

関西学院グリークラブ

同志社グリークラブ

主催 東西四大学合唱連盟